

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.30

カワウソが棲める環境に

高知県 須崎市長
ささおか とよのり
笹岡 豊徳



1. はじめに

須崎市は、高知県のほぼ中央に位置し、四国山脈を背に黒潮踊る太平洋に面した海洋都市です。須崎港は、天然の良港として古くから栄え、今では巨大な船舶が入り出る国際貿易港となっています。

2. 清流「新荘川」

本市を縦断する流程24.1kmの美しい清流です。昭和49年の夏、特別天然記念物のニホンカワウソが発見され人々を驚かせました。ほとんど絶滅状態で幻の動物と言われていただけに、須崎市は一躍カワウソの街として有名になりました。昭和54年の夏、カワウソは再び市内に出没し、その後も足跡などの生息情報が寄せられました。

3. カワウソの棲める環境に

新荘川は市民にとって憩いの場であり、本市の重要な水源地でもあります。しかし、最近ではツルヨシが川原を覆い、子供たちが遊べる場所が少なくなり、かつての清流が失われつつあります。また洪水となると、草木が海に流れ込み大きな問題と

なっています。そこで、新荘川に思いを寄せる市民の方々が行政と連携・協力し川の環境改善に向けツルヨシの刈り取り、ゴミの清掃など幅広い活動を行っています。

4. 次世代のために

カワウソにとって棲み難い環境というものは、人間にとっても決して良い環境とは言えません。酸性雨が森を破壊し、異常気象が多発し…。これらの要因として地球温暖化が叫ばれています。

全ての人々が、温暖化の原因である二酸化炭素排出削減に取り組まなければならないと思います。本市においては、四国一の発電規模となる300kwの太陽光発電施設が一般廃棄物処理場に建設中であり、平成19年度までに市内全体で1,000kwの発電規模を目指します。また、木質バイオマス発電についても調査研究を進めており、クリーンエネルギーの街づくりを積極的に推進していきます。

澄んだ水、空気、美しい森、川、海、かけがえのない豊かな自然を次世代へ残すことが、私たちの努めだと思えます。



須崎港



子供の川遊び



新荘川清掃風景